

北京発信

2017

中国

イノベーションニュース

FROM BEIJING CHINA

ご自由にご覧ください

無料

 真友堂®

- 制作
- お問い合わせ

北京真友堂
baiwenhua@zhenyoutang.com

駐車場

「易行泊車」 低料金の駐車サービス



空港や列車駅は駐車料金が高く、駐車時間が割りと長い。例えば、北京空港の駐車料金は50元（約800円）/日。また、場合によっては段階的料金制度を採用したりする。

「易行泊車」は、空港や列車駅の付近に自社の駐車場を作り、お客さんが同社の駐車場まで運転して行くと、目的地（空港など）まで送迎サービスを提供することで、お客さんを確保している。尚、北京空港付近の同社の駐車料金は20元（約320円）/日。

出所 飛象網

自動車

自動車シェアリング

消費者は携帯電話の専用APPで、近場にあるシェアリング自動車の使用を注文して、目的地まで自分で運転して行くことができる。料金はタクシー代より安い。つまり、APPを開いて、自動車の停泊地と返却地を選択し、利用可能な車両を選ぶ。すると、車種、ナンバープレートおよび走行距離などの情報一覧が浮かぶ。



また、ユーザーが自動車の停泊地まで来る時間を15分に無料設定。15分後に料金計算が始まる。

現時点で、シェアリング自動車APPビジネスに従事している会社は全国で7社あり、車種は合計16種類もある。最も多いのはベンツSMARTである。

出所：中央テレビ局、互聯網品牌官など

自転車

北京市、自転車専用道路を建設



北京市は来年1本目の自転車専用道路を建設する。昌平区の天通苑住宅街と海淀区の中関村団地を繋ぐ距離は約9キロメートル。車道は両側2車線で、道幅は5メートル～7メートルである。閉鎖形の道路として、自動車の走行は禁止される。

【出所 新京報】

レンタカー

「レンタカー産業発展推進に関する指導意見」が発表

6月1日、交通運輸部と住宅・都市農村建築部が制定した「レンタカー産業発展推進に関する指導意見」の意見募集稿が発表された。



政策の主旨は、カーシェアリング産業の発展を支援することにある。つまり、企業がネット、GPSなどの技術を利用して、料金計算・セルフ式予約・返却・支払いなどのサービスを完備させて、レンタカービジネスを展開することを奨励する。

【中国新聞網 2017/6/1】

地下鉄

北京の地下鉄でモバイルペイメントを導入

この程、北京の地下鉄でモバイルペイメントが出来るようになった。NFC (Near Field Communication) 機能を備える携帯電話でユーザーがAppをダウンロードし、相応機能を設定すると、乗車カードを持たずに携帯電話だけで地下鉄に乗ることが出来る。

【出所 首都の窓】





01

オンライン医療サービス



「春雨」、「丁香園」、「好大夫」は、オンライン医療サービス業界の代表企業に浮上した。複数の医者と契約を結び、消費者にオンライン診断や質疑応答を提供するだけではなく、患者に協力して病院の予約を上げてたり、医学知識も普及させたりもする。また、医者、薬剤師等の医学従業者に医学情報や医薬情報検索サービスも提供している。

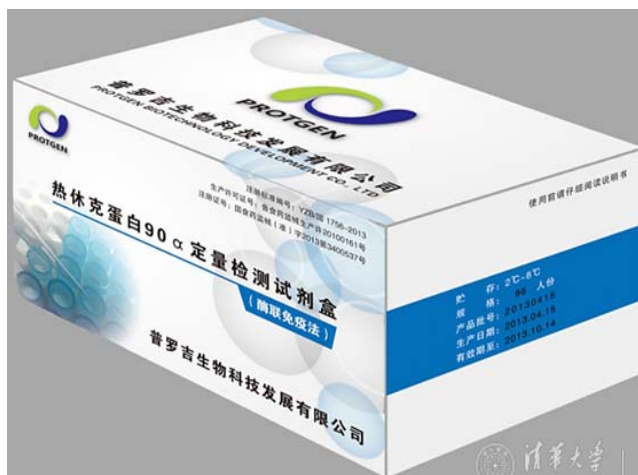
出所 春雨、丁香園、好大夫

02

中国医療チーム、1滴の血でガンを測定

清華大学生命科学学院の羅永章教授の研究チームは、患者の1滴の血で、腫瘍を測定出来るHsp90 α 測定試薬を独自で開発した。これはCT(Computed Tomography)などの映像測定方法と比べて費用が安く、操作も簡単であることから、病状診断や治療の効果評価に使えることが予想される。この技術は、中国の臨床試験認証とEU医療機器認証を既に取得しており、まもなく中国とEU市場に導入される見込みである。

出所：清華大学、中央テレビ局、浙江の音、青年時報など



01

老人むけのAPP



現在、中国ではさまざまな老人向け携帯電話のAPPが現れている。

あるAPPは、家族専用の「モーメンツ」をベースに、便利なチャット機能やお知らせや、お手伝いサービス、応急支援等のサービスを提供している。

あるAPPは、インターネットショップやアパート団地のコンビニと提携して、老人向けの配達サービスを提供している。

また、老人向けに医療サービスのAPPもあり、専門医療診察や検査及びリハビリテーション指導等のサービスも提供している。 出所：小依休、愛銀髮

02

上海市で初の菜食シェアリング冷蔵庫が登場

菜食シェアリング冷蔵庫とは、NGOやお店との提携により、余った安全な菜食を収集して冷蔵庫に入れて、貧しい人達や必要な人達にシェアしてもらうことである。また、これらの食べ物を必要な人達に届けるために、顔認識や身元認証機能を持った新型冷蔵庫を普及させるという。 出所 【上海新聞】



03

「健康・高齢化産業発展の第13次5か年計画」登場



中国衛生生育委員会是他部門に会同して「健康・高齢化産業発展の第13次5か年計画」を発表した。2020年まで、中国における60歳以上の高齢者の割合は17.8%、人口は2億5500万人と見込まれている。

従い、高齢者向けの医療、健康回復、介護、家庭サービス等の発展が問われており、情報技術による医療・介護事業の推進が浮上してきた。健康管理のウェアラブル端末やセルフ診断設備などの業界は大きなチャンスを迎える。 出所 人民日報海外版

通販サイト大手 速達材料のエコ化を推進



2016年、中国の宅急便業界は120億のビニール袋、144億のクロネコボックスおよび247億メートルのゴムバンドを使用した。これらの材料の大部分は有効に回収する手段がなく、発生した包装ごみは数百万トンに達した。今年、ネット通販の大手「蘇寧」はリサイクル可能な宅配ボックスの普及に着手し、2018年に20万個を投入する予定である。「京東」も重複使用可能な宅配袋の利用を開始し、百万枚を放出する。アリババ傘下の「菜鳥網羅」も分解出来る宅配袋を採用しており、利用量はすでに500万枚に達した。

【出典 新華網、TechuWeb、全天候科技】

中国、世界第一本の量子通信幹線を開通

9月29日、世界最大の量子通信幹線である「北京・上海幹線」が正式に開通した。幹線は北京と上海を繋ぐ、延長2,000キロメートル以上の通信幹線である。また、同幹線は、北京のアクセスポイントを経由して、中国製量子科学実験衛星「墨子号」とつながっており、将来的に全世界をカバーする量子通信網の実現に向けて第一歩を踏み出した。量子通信は最も安全性が高い暗号化通信であり、情報の安全性の問題を確実に解決できる。

【出所 新華社】

中国 来年次世代移動通信「5G」の商用化を試験導入

中国工業・情報化部は、このほど、中国の5G通信の2段階目の試験を完了し、3段階目の試験も年末に開始し、来年には通信大手により商用試験を開始すると発表した。5G通信の平均伝送速度は10 Gbpsに達しており、現行の4G通信の100倍以上である。

【出所 北京日報、央広網】



飲食産業



出前専門事業 「熊猫星厨」

2015年、中国における出前マーケットの売上総額は1,615億5,000万元（約2兆5,878万円）で、店舗の数は500万軒以上。料理製作過程における監督不足や家賃、人件費、出前サービス料金のアップ等の現状を勘案して、「熊猫星厨」（food-union）は新しいビジネスモデルを打ち出した。



2016年3月に発足した「熊猫星厨」は、出前事業者には台所のレンタル、オンライン運営およびパッケージ・デザインサービスを提供する以外に、ユーザー管理や行政監督対応などのサービスを提供している。現時点で、50社以上の飲食事業者が同社と契約を締結した。

出所 熊猫星厨



ザリガニ料理 中国でブーム

ここ2年、中国ではザリガニ飲食業がブーム！市場規模は1,000億元（1兆6,646円）を上回るという。飲食チェーン店も通販大手も続々と参入し、多くのザリガニ飲食店が現れている。天猫（Tモール）と京東でもザリガニ館が開かれ、浸し物ブランドである「週黒アヒル」や中国鍋ブランド「海底撈」もザリガニ製品を発売し、一部のケンタッキーの店でもザリガニサンドイッチを打ち出した。

出所 南方日報、美团、KFCなど



01

創客教育(Maker Education)が流行

創客教育(Maker Education)とい理念が中国で流行っている。この理念は、学生の興味に基づき、データ化道具を使用して、物づくりを提唱し、成果物をシェアすることにより、学生達の学科を跨る問題解決能力、チームワーク能力、創作能力を育成させることである。

2013年に創業した「楽知ロボット」社はKenBlockシリーズ商品を開発したが、主に海洋、宇宙船、エンジニアリング、インダストリー等の4つのテーマに分かれる。同社は定期的に国際水中ロボット大会、国際ロボット大会などを主催している。

【出所 36クリプトン】



02

アマゾン中国版Kindleを発表

6月27日、アマゾンはチャイナモバイル傘下の電子書籍書店「咪咕」と提携して、中国カスタマイズkindle・アマゾンKindle咪咕電子書籍の端末リーダーを発表した。中国の読者は、Kindle電子書籍書店と咪咕電子書籍書店を自由に訪問できる。

出所 アマゾン中国、搜狐など



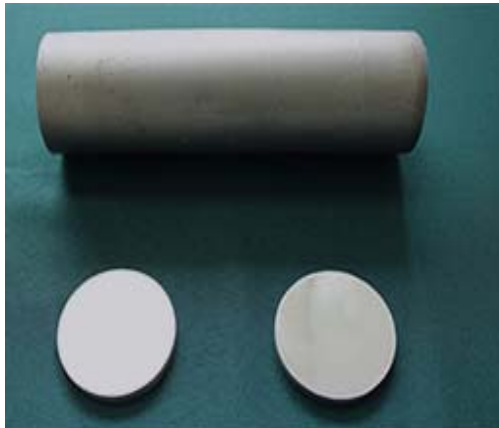
1 中国産大型ジェット旅客機「C919」試験飛行に成功

中国の国有企業「中国商用飛行機」会社が開発した大型ジェット旅客機「C919」が、5月5日に試験飛行に成功した。現在まで、世界中からの受注台数は570機。納品するには、米国連邦航空局（FAA）や欧州航空安全局（EASA）の耐空証明を取得する必要があると、年内に新しい耐空証明協定を締結する計画だ。

【CCTV 2017/5/5】



2 中国企業 航空エンジンのコア部品を製造



航空エンジンは飛行機器の基幹部品であり、航空エンジンのコア部品がタービブレードである。タービブレードは十分な耐熱性と疲労強度等を具備していることが必要で、レニウム合金を採用する必要がある。民間企業である成都航宇超合金技術有限公司は、自社特許により2モデルのレニウム合金を開発して単晶体タービブレードを製造した。現在、このタービブレードを採用した航空エンジンは150時間の試運転を実施中である。

【出典 新華社】

■ ミニカラオケの登場



2015年からミニKTVが多く登場した。約2㎡の2～3人収納できるガラスボックスが基本モデルで、ショッピングセンターや映画館に据え付けられている。普通のKTVに似たスクリーンやマイクやイヤホンが配置され、ケータイ電話やコインでの支払いも可能だ。

艾媒諮訊（コンサルティング会社）によると、2017年の中国におけるミニカラオケ市場規模は31億8,000万元（約503億円）であり、来年は120.4%増加の70億1,000万元（約114億円）の見込みという。

【新京報など 2017/6/1】

■ 携帯電話ゲーム「王者荣耀」が超人気



2016年後半以来、テンセントの携帯ゲーム「王者荣耀」が超人気を浴びている。今年1～3月の販売高が60億元（995億円）に達し、年間売上270億元（4,476億円）の見込みである。ゲームのアクティブユーザーは毎日5,000万人以上で、使用者数は2億人を上回っている。しかし、たくさん未成年が夢中になったために、最近このゲームへの批判が高まり、テンセントの株価も一気に下落して話題になっている。

出所 証券時報、人民網など

■ 「旦那さんの休憩室」が出現



最近、上海市のあるマーケットに「旦那さんの休憩室」が現れた。中には座り心地のいい椅子やスクリーンやコンピュータおよびゲーム機が配置されている。奥さんのショッピングに付き合う男性向けの専用休憩場である。開発社は今後有料サービスを提供するという。

【出所 澎湃新聞、鳳凰網】



信用

第三者信用評価機関 「芝麻信用」



アリババが運営する電子決済サービス「アリペイ」から派生した第三者信用評価機関―「芝麻信用」が既にビジネスを展開している。アリペイの関連データをベースに、個人や事業者の信用を評価し、クレジットカード、消費ファイナンス、ファイナンスリース、ホテル、住宅賃貸、旅行、公共事業などの分野で、個人や事業者に信用サービスを提供している。採点が高い消費者は頭金不要で自動車をレンタルできるなどの便宜が図れる。

出所 支付宝

顔認証技術が公共生活へ

近頃、南方航空は河南省の南陽空港にて「顔認証搭乗システム」を試験的に導入した。旅客は搭乗ゲートで数秒以内に顔で識別され、すぐ搭乗できる。このシステムは南方航空、百度および広電運通により共同開発されたもので、正確率は99.77%に達する。また、北京市の高速鉄道駅でも顔認証技術が試用を始めた。上海市ではこの技術を赤信号を無視する歩行者への披露に使い始めた。重慶市や深セン市ではこの技術を迷子の捜査に利用している。 【出所 中国新聞網など】



観光

中国の国慶節連休期間中の観光客7.05億人数、消費額約10兆円

中国国家観光局のデータにより、建国記念日と中秋節の8日間の大型連休期間中、全国の観光客は7.05億人に達し、旅行収益が5,836億元（約9兆9,258億円）に達した。そのうち、北京と上海の市民の旅行支出は1人当たり7,000元（約12万円）以上で、海外旅行の消費額は1万元（約17万円）を上回った。全国の出国観光客数は600万人を超えた。目的地は主に日本、タイ、シンガポールなどである。



【出所 中国経済網】



DJI ドローン ドローン 民用ドローン市場を統率



広東省深セン市にある大疆創新科技有限公司は、世界最大の民用ドローンメーカーであり、全世界の市場占有率は70%に達している。その航空用撮影ドローンは映画界で広範に利用されている上に、スターと空撮愛好者にも歓迎されている。DJI ドローン ドローンは、既に全世界の多くの国で販売されており、シリア戦乱の中では軍事偵察にも使用されている。

【出所 大疆、網易など】



アリババ 知能ガソリンスタンドを建設

アリババの1か所目の知能ガソリンスタンドが今月浙江省杭州市で建設される。赤外線カメラを設けて、ナンバー・プレートを識別して車の持ち主、自動車の型番、石油製品の情報、タオバオIDなどを識別できる。ロボットアームがオートコンプリートの一連の操作、燃料タンクのフタ開け、ガソリンの種類の選択、給油およびフタ閉め等を人手の介入なしに行うことができる。運転者はモバイルペイメントも利用できる。

【出所 速科技、財新網】



シェア傘が複数の都市で登場



上海、広州、深セン、南昌などの都市でシェア傘が現れた。主に地下鉄の出口、オフィスビル、ホテル、コンビニなどに置いてある。シェア傘はシェアサイクルと同じく、傘のユーザは身分認証、デポジット、チャージなどのプロセスが必要だ。8月12日、「春のタケノコの傘」の運営者はエンジェル投資家より1,200万円の投資額をもらったと発表した。同社の傘は逆方向に開閉出来ることで、傘を畳む際に人が雨に濡れないように設計されており、裏面にはUV塗装膜があるため、日傘としても利用できる。

【出所 創業邦、億欧網】



アリペイはケンタッキーで顔認証技術を試験的に導入



浙江省杭州市万象城ケンタッキーのKPROレストランでは、消費者がセルフオーダーシステムで注文する際に、支払いページで「アリペイ顔認証」を経て携帯番号を入力し、確認後支払いが終わる。初めて利用する場合は、アリペイのAppでこの機能を起動させることになっている。

【出所 36クリプトン】



パートタイマーが家事代行業を代替

中国における家事代行業は人件費のアップにより需給バランスがくずれている。従業員のレベルもまちまちで、雇い主は安心感に欠けている。これに比較して、時給精算によるパートタイマーは費用が分かりやすく、雇い主が家にいる時に掃除するため、雇い主に安心感を与えることからパートタイマーが流行り出した。

出所 36kr、搜狐



モバイルペイメントは中国で日常茶判事に



今、中国の都会では、多くの人がスマートフォンで各種の支払いを済ませている。今年以来、杭州市、武漢市および福州市は次々と「ノウキャッシュ都市」に参加する計画を発表した。

モバイルペイメントはいつでも、どこでも利用できるように、現在、公共交通、観光、野菜市場、コンビニ、モバイル・ネットワーク消費、通話料の支払い、列車の切符や航空券の購入、ホテルの予約、観光地の入場券購入、医療、ビザ、罰金の支払い等、広く使われている。

【出所 人民日報など】

生活サービス産業



レジのないスーパーが登場



このほど、アリババの無人スーパーマーケット「淘珈琲」が浙江省杭州市でオープンした。顧客は、携帯電話のアプリで二次元コードを読み込むだけで店に入って商品を選ぶと、アプリで自動的に精算が終わる。列を並んで支払う必要がなくなった。

これと並行して、大手小売企業であるオーシャン・大潤発が共同出資したBingo Boxという無人コンビニも上海市で試運転を始めた。北京市でも一部のスーパーではセルフ精算機を置いてレジの無人化を図っている。

【出所 新民晩報、新京報など】

本資料の使用に関する声明

本レポートは北京真友堂が開発した商品であり、著作権は北京真友堂の所有となります。無断コピーや無断転送はご遠慮ください。尚、本レポートの内容はあくまでも利用者の参考用の資料として提供するものであり、この資料の利用に関する法的責任や本資料の内容によるトラブルの責任は一切負わないことをあらかじめご了承ください。



中国調査レポート市場